

恵みと真理のニュース



2013年2月の二次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



[証] 私をお救い頂き、お祈りに答えられ、福音伝播に楽しませて頂いて感謝致します。

私は家でたびたび祖先の祭祀を行う様子を見て育ちました。学校を卒業して職に就いていた際に結婚をしましたが、夫の実家は仏教を信じる家庭だった上に、夫が長男の長男なので夫の実家でも1年に祭祀を8回も行わなければなりません。初子を出産してからはよく具合が悪くなって、慢性扁桃腺炎にうつ病と対人恐怖症まで来しました。歩きまわる総合病院ともいえるほど体が痛んで、身も心もボロボロになって足しげく病院に通っていました。継続病院に通って扁桃腺炎はある程度直りましたが、日増しに体力が弱くなってうつ病と対人恐怖症はひどくなりました。誰かに山登りでもしてみたらと言われてある山登り会に入って毎休日あちらこちら有名な山をがりがりと探し回りました。その当時、故郷の同門たちが運営するネット同門会から故郷の先輩の恩恵と真理教会の長老お一方を知りました。その方がネット同門会の掲示板に載せてくれる福音にまつわる話をたまたま読んだり、教会に出てみたらという勧告も受けました。しかし、教会は私とは関係ないと思ってよく聞き流してしまったのです。調理師で働く夫はいろんなところを巡りながら生活して家に帰ってくるのがごく少なかったです。淋しくて不安でうつ病がひどくなると、あまりにもつらくて漠然と神様を考えてみましたが、依然として私は「宗教というのは全てが似たり寄ったりで、あれば良いもので、無くても別に問題ない」と思っていました。長老さんは諦めないでいつも私に福音を伝えてくれました。早く退勤する時が多かったですが、内気な性格のため、仲間とはよく付き合えなくて家に帰って独りで時間をつぶすことが多かったです。こんなに5年もの時間が経ちました。長老さんが送ってくださった信仰書物何冊が本棚にさし込まれているまま、その間放置されていました。ところが、今年2月初旬のある日、本棚のある牧師先生の干証書籍の表題が目に入りました。一度読んでおきたいと思って本を取って2、3枚を読んでから閉じてしまいました。頭からドラマまたは小説に出てくるような話に思われたからです。心に「天国、地獄ってあるものか、人々を教会に出させるために作り上げた話だ。」と言いました。それから何日が過ぎた後、もう一度本を開きました。初めとは違って字がよく目に入って読んでいううち、不思議なことに体がふるえてきました。まったく地獄が存在するとしたら、どんなことがあっても地獄だけは行くまいという思いがしました。長老さんにお電話したら長老さんは長い間イエス様を信じなければならぬ理由と信仰生活について詳細に仰ってくださいました。そして私が住むジャンユにも恩恵と真理教会があるのでその聖殿に絶対出てみてくださいといって大教区長牧師と首区域長をご紹介くださいました。すぐ牧師先生よりご連絡が来しました。それから2月5日、ジャンユ聖殿に出て主日礼拝に出席するようになりました。

その日、党会長牧師の説教を聞き取って素晴らしい経験をしました。それほど信じられなかった福音が、聖書のお言葉が即座に信じられてきたのです。説教を聞き取っている間ずっと涙が溢れました。泣くまいと頑張ってもはじまりませんでした。ちょうど聖餐礼拝だったので聖餐式の間は手に負えないほど悔い改めと喜びの涙を流しました。一緒に歌った賛美歌144番「イエス様私のために」の歌詞の一節一節が私のために書いてあるように感じられました。神様の生きていらっしゃることに、私をお救い下されるためにイエス様が十字架につけられて贖いの血を流されたことが疑心なしに信じるようになりました。初めて捧げました礼拝だったので牧師先生の説教と神様のお癒しと祝福のためにお祈りをして頂く時、「ハレルヤ」、「アメン」という声が軽々と口から出ました。まるで主イエス様がその日私が主の前に出ることを知ってお待ちになっていて、「来たの？よく来てくれた。お帰り。」と嬉しく迎えて下さるようでした。

その日、私はイエス様を私の救い主として心に迎え入れて生まれ変わったような感激を味わいました。去る5年の間、信じようとしても信じられなかったが、突然信じられてきた恩恵を体験してみると口で言い表わせない喜びと感謝に溢れました。長い間の食もたれがぼんと消えたように心がすっきりとなって気持ちも新しくなりました。初日の素晴らしい感動と喜びが水曜礼拝、金曜礼拝、次の主日礼拝までどんどん私の足を教会に向けて、礼拝を捧げる日を待ち望みました。党会長牧師の説教で恩恵を受けて信仰が深くなるにつれて牧師先生にお会いしたい思いが募っていきました。こんな私の気持ちが伝わったのか感謝すべきことに間もなく党会長牧師がジャンユ聖殿にお見えになって祝福聖会を導いてくださいました。礼拝が終わった後に党会長牧師に挨拶祈りを受けて牧師先生と奥様と一緒に写真も取ることが出来てもっと嬉しくて楽しかったです。かつて私は退勤して夕方6時以降はほとんど外出をしないで夜9時になると寝につく習慣がありました。しかし、遅い夜の金曜礼拝に出席するために教会に行く時間が誠に楽しい時間になりました。そう変わっていく私の様子が自ら信じられませんでした。前は職場に行けばドラマとか芸能人の話で一日を始まりましたが、今は福音をお伝えすることとなりました。神様の愛の話、私が神様から恵まれて体も心も以前とは変わった話を周りの人々に聞かせてあげなくてはたまらなくなりました。長く信仰生活をしたものでもないのにこんなに突然考えと生活が変わったのは確か神様からの恵みでなくては説明ができません。そして5年間長老より度毎に少しずつ福音を聴き取ったのも多分大きな役に立ったものと思われそうです。長年の憂うつ症、不安、焦燥、恐れなどの症状が消えてから体も健康になって心には喜びと安らぎに溢れるようになりました。薬を飲んでも駄目だったし、趣味と運動にても解決できなかった病々を神様はすっかり治療して下されました。

肯定的な態度と明るい姿で生活できて、あらゆることに感謝できるようになりました。以前好きだった世の中のことが何でそんな一度に嫌になったのか、私の変化に私も驚きました。朝目を覚ますと最初に神様にありがとうございますと申し上げてから一日を始めるようになって、以前とは違って庭園に咲いている花々と樹木が違って見えて美しく感じるこういった全てのことが主イエスに逢った以降、人生のボーナスで頂く祝福のようです。家に帰ってくると息子に、会社にいくと同僚一人一人に私が体験して覚ったことを伝えるのに忙しかったです。信仰生活をしてから間もなく熱情的に福音を伝えていたら周りの同僚たちに急に思われたり、白い目で見られたりしました。しかしながら、私と一緒にして私に逢う人々が「天下より尊い一生命」であることを考えると皆が懐かしい顔で、イエス様の愛で愛すべきの対象となりました。私のみこんな福を頂いてはいけない思いがしました。家庭の福音化のために一生懸命お祈りして努めたら、初の結実で3ヶ月目に一人きりの息子が教会に出て主イエス様を心に迎えました。世界神様の聖会の総会長牧師が我が教会を訪問してご説教頂いた日でした。引き続き伝道のために40日間の計画祈りを始めました。初めはお祈りが難しく私個人と家族のためにのみ短くお祈りしていましたが、すればするほどお祈りが楽しみになって国と教会と会社の同僚たちのためにも多くの時間お祈りをしました。伝道の対象となった同僚と家族の名前を一人一人呼びながらお祈りしていたら、哀れみと憐憫で心苦しくなって靈魂救援の使命感で張り切るようになりました。計画祈りを始めてから1週間目に息子の友たち5名を伝道して決信させ、会社でも機会を作って熱心に伝道しました。中途であきらめないで持続してお祈りして伝道したところ、神様の役事で計画お祈りが終わる前にもう会社同僚3名と息子の友たち2名を主へ導くことができました。

私は世の中のどんな名誉とも比べられない伝道王という栄誉あるあだ名を必ず得たいです。1次目標で年末までに50名を伝道する計画を立てました。この目標を達成して本干証欄を通じて神様に大きな栄光が捧げられることを希望します。40代半ばになって遅く主イエスを迎えただけにいつか主の前に立つ時に恥ずかしくないようにもっと一生懸命主イエス様に仕えて頑張ってお福音をお伝えします。私に救いを恵んで下された

神様、お言葉の恩恵で恵まれた人生を生きさせる神様、お祈りに答えられる楽しみを下される神様、主の仕事に献身する幸福を味わって暮らせる神様に感謝と賛美と栄光を捧げます。ハレルヤ！



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

“キリストだと言うイエスを私がどのようにしようか?”この質問は総督ポンテホピラトがイエス様を告訴したユダヤ人たちを向けて投げた質問です。ポンテホピラトのこの質問はその日その所に集まったユダヤ人たちを向けたことだったが、広い意味ではすべての人生に当たる質問です。誰でもイエス様に対して聞くようになれば“キリストであるイエス様をあなたはどうなさいますか?”という質問に直面するようになります。今日はイエス様当時の人々がキリストであるイエス様に対してどのようにしたのかをよく見ることでキリストであるイエス様に対する態度決定の重大さを新しく認識するようにします。

先に、イエス様の弟子になろうと付きまとった人々がキリストであるイエス様に対してどのようにしたのかをよく見ます。

イエス様の弟子はイエス様が親しく選んで呼んだ12人の弟子たち以外にもたくさんありました。一度はキリストが永生するようにするパンに関しておっしゃいました。“私は天から下った生きてあるパンだから人がこのパンを食べれば永生しよう私の並びパンはすなわち世の中の生命のための私の身だな。”しました。そのお話によって弟子たちの間に論争が起りました。“この人がどうして十分に自分の身を私たちに与えて食べるようにするのか?”しました。キリストが彼らに“私の身を食べて私の血を飲まなければ生命がなくて、私の身を食べて私の血を飲む者は永生を得て永遠に暮す。”とおっしゃいました。すると彼らは“このお話は難しい。誰が聞くことができるのか?”と露骨的な拒絶反応を表示しました。そして弟子たちがたくさん離れ去ってしまいました。聖書のみ言葉を人間の頭脳にだけ解釈しようと思えばイエス様をキリストで信じることができません。イエス様外にもキリストがあるというものを言う者等と手を取り合うようになります。このような決定は自分の魂を破滅するようにする決定です。

次は、カリオデユダにキリストであるイエス様に対してどのようにしたのかをよく見ます。キリストが弟子たちを連れて夜に折ろうとゲツセマネの園でいらっしやいました。やや過ぎてカリオデユダに輩らを率いてイエス様と弟子たちがある所に来ました。カリオデユダはイエス様を逮捕する事を周密に進行しました。軍事と下人たちが誰がイエス様なのかを直ちに調べるようにイエス様に近付いて裏切りの口付けをしました。カリオデユダにイエス様を売ってしまった原因は貪欲のためです。神様を仕える対象で見ないで自分志を果たすための手段で見ればこんな行動をするようになります。神様を自己中心で仕えようと思えば必ず弊端が生ずるようになります。カリオデユダは12人の弟子の中の一人と召された者でした。

キリストだと言うイエスをどのようにしようか?

しかしキリストであるイエス様に対してどのようにするかに対して誤った決定によって天国で12宝座の席に座るようになる恵みと光栄を失われてしまった者になってしまいました。彼は地獄に入りました。

次は、ペテロを含めた弟子たちがキリストであるイエス様に対してどのようにしたのかをよく見ます。

軍人たちがイエス様を取って大祭司長カヤバの家に連れて行きました。弟子たちは皆逃げたがペテロでは遠く離れてイエス様に付いて行きました。そして大祭司長の家に入って行って大祭司長の下人たちとともに座っていました。大祭司長の家にサンヘドリン公会院である書記官たちと長老たちが集まってイエス様を殺す証拠を捜すために血眼になりました。こんな光景を見たペテロでがいっぱい怖がっているのにある女の僕がペテロでがイエス様と一緒にいたと人々に言いました。するとペテロでが人々の前でイエス様が分からないと否認して席を移しました。あの時他の女の僕が彼を見知りました。ペテロでが誓ってまたイエス様が分からないと否認しました。しばらく後にそばに立っていた人々が近付いて止めてペテロに言うのを“あなたもその人に属した者だ。あなたの物言いを聞いて見たら確かだ。”しました。ガリラヤ地方の物言いを聞いてそれほど判断したのです。ペテロでが呪いながら誓って言うことに“私はその人が分からない。”しました。その時にわとりが鳴きました。“にわとりが鳴き前にあなたが三度私を否認しよう。なされたイエス様のお話の思い出したペテロが外に出て甚だしく泣きわめきました。

ペテロへの泣き喚きは自分の背反的な行動に対する。ゲツセマネの園に登る前にイエス様が弟子たちにおっしゃるのを“あなたたちがすべて私を捨てて去る時が来る。”と予告しました。ペテロでが言うのを“すべて捨てても私は捨てないです。獄にも行って死ぬにも行きます。”と言いました。ところで今三度も否認しました。自分の意志がこのように弱いことは自分も分からなかったです。イエス様が逮捕すると弟子たちはすべて逃げました。ペテロではイエス様の前でイエス様が分からないと否認しました。しかしこれらが意図的にそんなことではなかったです。あまりにも怖気ついてそんな背反的な行動をしました。しかし彼らは皆イエス様位に帰って来たしキリストであるイエス様を愛して仕えることに決めました。イエス様はメシアである、唯一のキリストだということを彼らが信じたしキリストのために暮すことに決心しました。果して彼らは命をかけて福音をのべ伝えました。彼らは皆天国に行きました。

次は、ユダヤ宗教リーダーたちと総督ポンテホピラトがキリストであるイエス様に対してどのようにしたのかをよく見ます。

大祭司長と民の長老たちはユダヤ最高議会サンヘドリン構成員たちです。これらはイエス様を逮捕して残酷な審問をしました。そしてイエス様を死刑に処するように定罪しました。しかし彼らに死刑判決と執行権がなかったから総督ポンテホピラトに渡しながらかローマに対する反逆罪で告訴しました。ポンテホピラトはこの問題に掛かり合うのを願わなかったです。ポンテホピラトはユダヤ人の節日に罪囚一人を放してやる慣例があることに着目して輩らに聞きました。

“私が誰を放してくれるように願うのか?バラバか、それともキリストだと言うイエスか?”バラバはうわさが立った凶悪犯だったが輩らが一斉に“バラバ”と叫びました。ポンテホピラトが“それではキリストだと言うイエスを私がどのようにしようか?”と問うと輩らが“十字架にくぎで打ち込んでかけられるのです。”と答えました。ポンテホピラトはバラバを放してやってイエス様を十字架に釘を打つように渡しました。イエス様を直接審問して裁判するようになったポンテホピラトはキリストを信じてキリストのために働くことができる機会を得たにもかかわらずイエス様を処刑する判決を下す決定をしました。彼は地獄の刑罰を免れることができなくなってしまいました。

次は、十字架にかけられた二人の強盗がキリストであるイエス様に対してどんなに行動したのかをよく見ます。

イエス様が釘を打たれたその日その時間、ゴルゴタ丘の上には三つの十字架が立たれました。キリストが釘を打たれた十字架は二人の強盗もかけられまして十字架のあいだにありました。十字架にかけられている強盗がイエス様を誹謗して言うのを“あなたはキリストではない?だからあなたと私たちを救援します。”しました。あの時他の1人の強盗が彼を叱りました。そしてイエス様を向けて“イエス様、主が神様の国に入る時に私を憶えてください。”しました。キリストが彼に答えるのを“私が真実であなたに言ったら今日あなたが私と一緒に楽園にいます。”しました。そして何時間後強盗二人の魂はそれぞれ他の世界に行きました。ある強盗は地獄で、他の1人強盗は楽園に行きました。キリストであるイエス様に対してどのようにしようかと言うことは救援と滅亡、天国と地獄の中に一方を選ぶのがなります。

私たちは一生の間に幾多の決断を出しながら生きて行きます。すべての決定をすべて合わせても比べることができない非常に重大な決定が一つあります。それはキリストであるイエス様を私がどのようにしようかと言うのです。私の救世主に信じて迎接しようかそれとも拒否しようかと言う決定です。この決定は各人の一生だけではなく永遠まで影響を及ぼすようにします。人々をキリストであるイエス様に対する態度で区分すれば三つの部類で分類されます。第一部類は、キリストであるイエス様を信じるのを拒否する人々です。キリストであるイエス様に対して関心がないです。あるいは教会を逼迫します。イエス様外にもキリストがあると言う人もいます。二番目の部類は、キリストであるイエス様を信じてくれる人々です。やむを得ず教会に出ます。ともすれば誰のためあるいは何の仕事のため教会を離れ発つ、イエス様を信じないというものを言います。名目上の信者であるだけです。三番目の部類は、キリストであるイエス様を真実に信じる聖徒です。彼の信仰は揺る不動です。キリストであるイエス様を信じることを最高の財宝で思います。喜びと感激する心でキリストをのべ伝えながら仕えます。

皆さんは“キリストであるイエス様をあなたはどうなさいますか?”という質問に対して“私はキリストであるイエス様を信じて愛しながらのべ伝えて仕えることを最上の幸せで思います。”と答えるようにお願いします。